

ひとつでも多くの命を救うために。

当協会ではサポーターを募集中です。

~会員へのご案内~

協会の主な活動

◎動物関連の法改正などの周知に努めています。

平成25年9月1日に施行となった「改正動物愛護管理法」を広く皆様に知っていただくと共に、まだ残されている課題の解決のために、関連法の整備を目指しています。

◎緊急災害時の動物救援活動を行っています。

噴火や地震、津波などの大規模災害の際に、被災した動物たちの保護活動を【緊急災害時動物救援本部】の一員として、国や自治体と協力して実施しています。

◎不妊・去勢手術の普及を推進しています。

不幸な捨て犬・捨て猫を増やさない根本的な対策は不妊・去勢手術です。各支部とも協力して、手術費を助成するキャンペーンや、猫の捕獲器の貸し出しを行っています。

◎正しい飼育管理への改善指導をしています。

怠慢であれ、故意であれ、劣悪な飼育環境は虐待になります。一般家庭はもちろん、動物取扱業や動物園、動物収容施設などの実態を調査し、改善を要望しています。

◎新しい飼い主探しのお手伝いをしています。

飼い主に手放された動物たちに、愛情と正しい知識を持って迎えてくれる、温かな家庭を見つける努力を続けています。

◎動物闘争の全面禁止を目指しています。

娯楽のために動物を闘わせるのは凄惨な虐待です。こうした行為の全国的な禁止に向けて活動しています。

◎研修・セミナー・シンポジウムなどを開催しています。

内外の専門家によるセミナーや講演会、他団体と共に開催するシンポジウムなどを通じて、動物福祉の理解と知識向上に努めています。

◎「動物愛護の作文コンテスト」を毎年実施しています。

全国の小・中学生を対象に、作文コンテストを50年以上にわたり実施しています。表彰式には、名譽総裁常陸宮妃華子殿下がご臨席されます。

◎他の動物愛護団体とも協働しています。

「動物愛護週間中央行事実行委員会」「動物との共生を考える連絡会」「動物ID普及推進会議」等のメンバーとして、他団体と共に積極的に活動しています。

◎電話相談をお受けしています。

一般の方々からの、動物に対する様々な電話相談に対応しています。

生きるべき命を守るお力添えを、私たちはお待ちしています。

2014
Happy Face of the Year



たくさんのハッピーフェイスが増えますように!

～すべての生きものに尊厳を～

アルバート・シュヴァイツァー

公益社団法人日本動物福祉協会

〒141-0022 東京都品川区東五反田2-6-5 フロインデ 2階
電話:03-6455-7733 FAX:03-6455-7730 HP http://www.jaws.or.jp



ANNUAL REPORT

あいさつ 理事長 山下眞一郎 1

I 動物福祉活動 2 ~ 7

- 動物虐待防止
- 東日本大震災動物救援活動
- 犬・猫の不妊・去勢手術の推進
- ペット動物の購入問題
- 動物との共生を考える連絡会
- 謙渡事業
- 各自治体における協議会・委員会
- 動物ID普及推進会議(AIPO)

II 広報・啓発活動 7 ~ 8

- 第55回動物愛護の作文コンテスト
- 動物愛護週間中央行事
- JAWSレポート
- 研修・講演・取材等
- 電話等による相談
- 事務所移転のお知らせ

III 募金活動 9 ~ 10

- 常陸宮妃華子殿下のご翻訳絵本とデザインカード
- 慈善ピンゴ会
- 各種オリジナルグッズの販売等
- 寄付金

IV 会員募集活動 10

V 事務局関係 10

- 定時会員総会

VI 各支部の活動報告 11 ~ 15

- 栃木支部
- 新東京支部
- 横浜支部
- 相模支部
- 南大阪支部

VII 財務状況 16

表紙 写真
セミナー風景(左)
動物愛護週間中央行事(右)

●事務所移転のお知らせ (業務開始予定:6月中旬)
移転先住所

〒141-0022 東京都品川区東五反田2-6-5 フロインデ 2階
電話:03-6455-7733 FAX:03-6455-7730



Japan Animal Welfare Society
公益社団法人日本動物福祉協会

動物を虐待から守りあらゆる「いのち」に
やさしい社会を築いていくために。

ご支援とご協力を
お願い申し上げます。



●お振込先:郵便振替
口座番号: 00130-6-20714
加入者名: 公益社団法人 日本動物福祉協会

終身会員(L)	140,000円	1回限り、正会員2名の推薦を要する
法人会員(CJ)	50,000円	(1口) (年額・1口以上)
維持会員(S)	7,000円	年額・正会員2名の推薦を要する
賛助会員(A)	3,000円	年額
青少年会員(J)	1,000円	年額・20歳未満

動物救護基金
 不妊・去勢手術助成基金
 一般寄付金 その他、協会の全般的な活動に対するご支援

ごあいさつ

理事長 山下眞一郎



会員及び当協会をご支援くださる皆様には、益々ご健闘にてご活躍の事と拝察、お慶び申し上げますと同時に、当協会の動物福祉事業に対する、常日頃の暖かいご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

当協会の中心的事業の一つである不妊・去勢手術助成キャンペーンでは、平成26年度は、対象地域を山口県、佐賀県、茨城県の3県とし、合計約2,000頭の手術の助成を行いました。特に、茨城県については、県獣医師会と協働し、同県での過去状況を踏まえ、より幅広く支援を行うことが重要との認識から、先着1,000頭を目指し、一律1頭2,000円の助成を行いました。また、5支部を通じても同様の助成を実施しており既述3県を含む全体では、3,000頭を上回る助成を行うことが出来ました。

また、セミナーの開催などを通じて、動物福祉事業活動の啓蒙にも注力しており、今年度も、シェルターメディシンセミナー（旧アニマルシェルターセミナー）を6月、12月計3日間開催、また、英国RSPCAから2名の講師を招いて、短期研修講座を開催いたしました。いずれも、「現場感覚を重視したセミナー」であり参加者の方々からは、「日常業務に直結しており、大変役立つ」と好評を得ました。

恒例の「動物愛護の作文コンテスト」も第55回を数え、全国1,279名もの小中学生の皆さんから応募を頂きました。動物福祉活動の裾野を広げていく上でも欠かせないイベントに成長していると思います。

また、年初から、共立製薬（株）の里親マッチングサイトに参加し、新しい飼い主を見つける機会を飛躍的に向上させることができました。

3月には、これもすっかり恒例行事となり多くの方が心待ちにしておられる「慈善ビンゴ会」を常陸宮妃華子殿下にご臨席を賜り開催、春らしい穏やかな天候にも恵まれ、約1,000人のお客様にご参加いただきました。

私共は、今後さらに活動内容の充実、拡充を図ることにより「動物福祉」の浸透に尽力する覚悟でおります。その観点からも、幅広い会員の方々の存在、そして会員を含む協賛者の皆様のご理解とご協力が一番の支えであり、事業活動の原動力です。周囲の方々に対する会員への勧誘を含めて引き続き力強いご支援を頂きたく、心からお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご活躍をお祈りしつつ、平成26年度の活動状況をご報告いたします。

名誉総裁

常陸宮妃華子殿下

役員

理事長 山下 真一郎
副理事長 斎藤 勝
理事 安田 幸子
理事 加藤 笑子（経理理事）
理事 兵藤 哲夫
理事 伊藤 美子
理事 佐野 登（総務理事）
理事 服部 真二
理事 井上 多賀子
理事 清水 道彦
理事 緒方 延泰
理事 飯塙 僕
監事 児玉 惟継
監事 高橋 直人

海外委員

英國日本動物福祉協会
理事長 A.Crittenden

事務局

事務局長 池田康寛
獣医師・調査員 町屋 奈
調査員 林 千尋
事務員 内田憲義
事務員 小犬丸千寿美

CCクロスマッチングスタッフ 深谷 美香
CCクロスマッチングスタッフ 丸元紫菜
CCクロスマッチングスタッフ 山名千賀子
CCクロスマッチングスタッフ 立原瑞穂

顧問

安部 勝人 佐良 直美
藤原 澄子 倉林 恵太郎
池本 卯典 濵谷 正
山崎 恵子
特別顧問 山口 千津子

I 動物福祉活動

◆動物虐待防止

改正「動物の愛護及び管理に関する法律」が施行され、1年余りが経過しました。今回の法改正では、動物取扱業が一種と二種に細分され、業者の責任・義務がより厳しく規定されたにも関わらず、劣悪な環境下で飼育しているペットショップ及び動物園・サファリパークの報告は、後を絶ちません。また、昨年、栃木県で起こった命を軽視した動物引き取り業者による犬遺体遺棄事件も、背後には、無責任なブリーダーの存在があります。

このように、「命あるものである動物を取り扱うプロ」としての意識のない動物取扱業の存在と自治体がそのような業者にも登録や継続を認めている現状ではいくら法律を厳しくしても何の意味もありません。このような問題を解決していく糸口として、まず、権限のある自治体が、登録申請及び継続時の立ち入り検査において法が守られていないと判断した場合は、登録を認めないこと、また、改善が認められない場合は、

指導→勧告→命令の一連の流れを迅速に行い、登録取り消しも辞さないなど、行政側の厳しい対応が必要だと考えています。

また、動物取扱業者には、動物達を命あるものとして愛護するだけでなく、適切な飼養管理を行い、終生飼養するなど、動物たちの生活の質=福祉を考えた飼養をしていく責任を持つもらいたいと思っています。

そして、何より、一般の方々がペットショップで動物を求める限り、劣悪な環境下で飼養しているブリーダー及びペットショップはなくなりません。もちろん、きちんとした飼養管理をしているブリーダーやペットショップがいることも確かです。だから、ペットショップやブリーダーを訪れたときに、臭く汚く不衛生だったり、動物の元気がないような場所では購入しないなどの一般の方々の意識の向上と、動物がほしいと思ったときには、まず、動物保護施設に足を向けるなどの行動が日本の動物福祉を支えることになると考えています。

動物虐待防止／東日本大震災動物救援活動等



ネグレクト：日よけや飼育小屋もない環境での飼育と著しい削瘦



引き取り業者

平成25年度全国統計（環境省まとめ）

	引取数（頭）		処分数（頭）	
	成熟個体	幼令個体	返還・譲渡	殺処分
犬	49,822	10,989	32,092	28,570
猫	35,068	80,416	16,320	99,671

② 幼令の個体は主に離乳していない個体を示す。引取数の所有者不明の成熟個体には、狂犬病予防法に基づく抑留が含まれる。引取数の所有者不明には、一部、県・市条例に基づく収容を含む。殺処分数には、幼令個体などの保管中の病気等による自然死も含まれる。成熟個体と幼令の個体を区別していない自治体にあっては、成熟個体に計上している。

れ、咬傷犬までも譲渡にだしたり、そのまま、動物福祉を無視した環境で飼養しつづける自治体もでてきております。このままでは、最後の砦として自治体の責任の放棄と自治体のホーダー化が危惧されるところです。

このように、数字的に引取り数・処分数が減ったからといって、日本の動物福祉は向上しているとは一概に言えないのが現状です。数字のマジックに惑わされず、現状をしっかりと認識して、眞の動物福祉向上に向けて、対応をしていく必要があると考えております。

◆東日本大震災救援活動

昨年9月末、福島県動物救護本部シェルター（三春シェルター）の業務が終了しました。しかし、福島県において、震災の甚大な影響は、現在進行形であり、協会としましても、継続的な支援は必要だと考えております。

今後も、福島県だけでなく、岩手県及び宮城県において、支援援助が必要な際は、自治体及び獣医師会等と協力体制をとりながら、被災地のニーズに沿った協力ができていけたらと考えております。

◆犬・猫の不妊・去勢手術の推進

平成26度の「捨て犬・捨て猫防止キャンペーン」は、対象地域を山口県、佐賀県、茨城県の3地域とし、茨城県では獣医師会と共同事業という方法で助成をいたしました。募集頭数を山口県はオス100頭、メス350頭、佐賀県はオス100頭、メス440頭といきました。

茨城県は茨城県獣医師会が窓口となり先着1,079頭に対して1頭一律2,000円を助成いたしました。

地域獣医師会のご後援の下、山口県はメス1頭1万円、オス1頭5,000円、佐賀県はメス1頭8,000円、オス1頭5,000円の助成を行いました。

結果の内訳は表1の通りです。

表1. 実施結果

	当選数(頭)				手術実施数(頭)			
	メス		オス		メス		オス	
	犬	猫	犬	猫	犬	猫	犬	猫
山口県	36	396	26	132	25	305	21	109
佐賀県	74	347	44	149	47	229	25	116
合 計	110	743	70	281	72	534	46	225

茨城県	手術実施数(頭)	
	メス	オス
合 計	655	424

表2. 本・支部 助成金支払い数(頭)

	メス			オス			計				
	支 部	768	358	1,126	本 部*	1,265	702	1,967	合 計	2,033	1,060
支 部	768	358	1,126	本 部*	1,265	702	1,967	合 計	2,033	1,060	3,093

*本部の頭数には、上記キャンペーン、CCクロ実施分を含む

各支部を通して不幸な犬や猫を1頭でも減らす為、不妊・去勢手術の助成金を出して手術の普及に努めました。

手術の助成頭数の内訳は表2の通りです。

◆ペット動物の購入問題

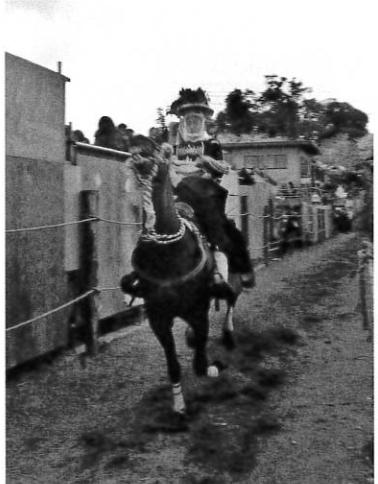
当協会が平成26年度に受けた購入トラブルの相談は、計35件と昨年より増加しております。内容は、依然として病気などの健康上の問題がトップで、次が購入代金によるものでした。お話しを伺っているとショップ側との話し合いの場で、問題をこじらせているケースが多いように思われます。

ショップ側の説明不足や、問題が起きた時の心無い無責任な発言により、問題が大きく感情的に変化しているような印象です。

◆動物との共生を考える連絡会

今年度も改正「動物の愛護及び管理に関する法律」が社会に浸透し、動物が「好き」とか「嫌い」とかではなく、同じ「感受性のある生き物」として対応することができるよう活動しました。また、現行法の動物に関する事例への適用推進と共に、法律を点検し、さらなる見直しに向かって活動を開始しました。

連絡会は三重県にある猪名部神社・多度大社における上げ馬神事から馬の虐待をなくし、動物虐待のない神事にしていただくよう、大社・神社側や無形文化財に承認している教育委員会、県の動物担当、警察に改善を申し入れ、継続的に監視してきました。今回は多度大社において2頭の馬が事故の結果安楽死されました。それを受け、関係機関に「動物の愛護及び管理に関する」法律を順守し、改善するよう申し入れました。



上げ馬神事

同様なことは、動物病院における診察治療内容及び治療費についての相談にも言えます。治療及び治療費についての十分な説明を受けていない、つまりインフォームドコンセンスの不足の訴えを多く聞きました。

また、インターネット上で、譲渡された動物に係った経費を高額で請求された事例もあります。インターネット上だけでの動物の売買は動愛法の改正により禁止されましたが、個人または愛護団体が保護した動物のネット上だけでの譲渡やその際に発生した経費の授受については、今のところ法による規制はありません。今後、同様な事例が増加するようであれば、法による規制を検討していく必要があると思います。

外来生物問題や人と動物の共通感染症、野生動物の不適切飼育等、野生動物をペットとして飼育することから生じる問題を広く一般に知つてもらい、野生動物のペットとしての輸入の禁止につなげたいと、環境省、厚生労働省のご協力の下「野生動物をペットにすることの問題点」と題したシンポジウムを開催しました。今後も、野生動物の専門家等と協働しながらこの活動は継続していく予定です。



セミナー風景

◆譲渡事業

新しい 飼い主さがし

本年も本部・支部ともに、動物達の新しい飼い主さん探しをお手伝いさせていただきました。本部では2015年2月より共立製薬株式会社にご協力いただき「里親マッチングサイト Veterinary Adoption」で特設サイトを作成いただいた結果、飛躍的に問い合わせが増えました。本部からは、犬8頭、猫4頭、CCクロからは犬99頭、猫59頭、各支部からは合計して犬273頭、猫193頭が新しい家庭に迎えられました。



雑種の「高見 ブッキー」くん（1歳）



兵庫県の動物管理センターから、飼い主さん探しに東京まで来たブッキーくん。物音などに敏感な性格なのでお家に慣れるまでかなりの時間を要しました。当初より男性に対しての恐怖心もみえましたが、飼い主さんの努力の成果で徐々に良化しつつあります。今では三人のお子さんたちに囲まれて仲良く兄弟のように遊んでいるブッキーくんは、ご家族にとってかけがえのない存在になっています。

パピヨンの「松岡花」ちゃん（4歳）



お子さんのアレルギーにより新しい飼い主を探すことになったとてもお転婆な花ちゃん（右側）。新しいお家では先住犬のライトくんがいたので相性が心配されま

したが、今ではとっても仲良し！2頭で仲良く肩を並べてご飯を食べている姿が微笑ましいです。ご夫婦には2頭にそれぞれ愛情を注いでいたので、溺愛しすぎて毎日抱っこをしているそうです。愛されている分だけ花ちゃんの表情に現れていると思います。

柴犬の「高木 こじまろ」くん（2歳）



飼い主さんの家庭の都合で、新しい飼い主さんを探していました。お腹をいつも下していく、飼い主さんからはいつものことなので気にされていませんでした。高木さん宅に引き取られた後はフードを変えていただき、毎日様子を観察していただけたおかげで今では下痢をすることなくなりました。こじまろくんには芸があります。2足で立ち上がり「こっちにきて！こっちにきて！」と前肢でおいでをしてくれます。高木家の前が小学校の通学路にもなっているので、こじまろくんは近所の人気者です。

CCクロ

2014年4月から、神戸市動物管理センターでは、高齢・疾病犬（現時点ではまだ犬のみ）の譲渡を開始しました。

近年、センターに保護・収容される犬猫の数は減少傾向にあるものの、一方では高齢・疾病を有する犬猫の割合が増加傾向にあります。

そのような現状の中、譲渡申請者の多くは、長い間いっしょにいたいから…という理由から、なかなか高齢・疾病の犬を選ぶ方はおられないものの、中には、そういった犬猫でも責任をもってお世話をしたいという方々もおられたことから、1頭でも多くの犬猫たちにチャンスを与えるために、譲渡対象にすることになりました。

しかし、まだまだそういった申請者は多くはないため、申請の際に呼びかけをしたりしながら申請者を募っています。

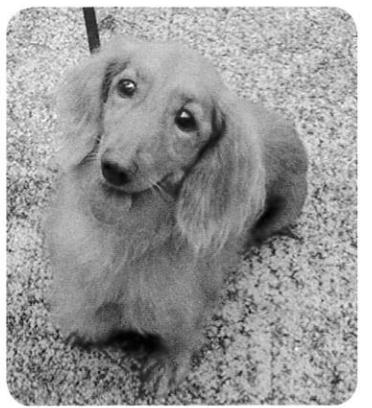
現時点では10頭の高齢・疾病の健康診断と不妊去勢手術を実施し、すでに譲渡されています。

譲渡された犬の中には、フィラリア症による肺動脈の拡張や、乳腺腫瘍、鼠径ヘルニア、喉頭軟骨の変形による呼吸不全、脱臼の放置、など様々な疾病がありました。

生涯投薬が必要であったり、今後の経過観察など飼い主さんにはご了承いただかなければならないことが多々あり、事前にゆっくりお話を聞く時間を設けながらご説明させていただいております。

このような新しい取り組みの中で、終生飼養がまだまだ浸透されていない事や飼い主の無責任さをまた改めて感じました。

高齢・疾病で譲渡された犬たち



幸せになった犬・ネコたち

◎さくら（常峰さんご一家）チワワ 4歳♀



昨年の12月に、動物管理センターより譲渡いただき、早4ヶ月が過ぎようとしています。

わが家のさくらは、超怖がりの甘えん坊で、最初のうちは、「どこに連れて来られたんやろ」と警戒心と不安でピクピク状態で、家のドアを開けたとたんダッシュで逃げ出した事もありました。

その後、少しづつ慣れててくれ、リラックスして居心地も良くなってきた様に見えてきました。

わが家では、平日の昼間は一人でお留守番を任せているのですが、最近はそれにも慣れ、マイペースでゴロゴロしている様です。一日の疲れも吹っ飛んでいます。

ありがとうございました。

◎ジーナ 1歳メス（春名さん）

昨年3月に13年一緒にいたラブラドールを亡くし、その後4月に我が家の一員になったジーナです。

私たち夫婦は還暦を迎え、ワンコを飼うのはこれが最後の一頭になるのかなと思い、今まで何頭ものワンコに幸せをもらったお礼の意味を込めて、最後の一頭は不幸なワンコ引き取って幸せにしてやろうと思ってました。

そして、ジーナが我が家に来てから夏は海や川へ、春と秋は小旅行に冬は雪遊びにとジーナをいっぱい楽しめました。

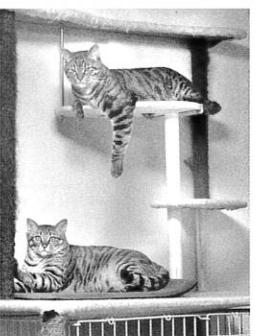


しかし、気がつくと結局また幸せにしてもらつたのは、ワンコより私たちでした。

とっても活発で健康で可愛いジーナです、これからもジーナと一緒に幸せなワンコとの人生を送りたいと思っています。

◎チューちゃん・ヨーちゃん（金子さん） 1歳

チューちゃんとヨーちゃんは性格も体格（食欲）も対照的。チューちゃんは活発、おしゃべりで、スレンダー。ヨーちゃんはおっとり、無口で、でっぷり。それでいて仲が良く、大抵はチューちゃんが寝ているところに巨漢のヨーちゃんがのしかかるように寄り添いますが、チューちゃんは目を細めてペロペロ。お互いに舐め合いっこを始め、これぞ平和の秘訣と我ら人類に教えてくれます。



家で一緒に暮らすネコは、放し飼いのネコと違い、人の付き合いも濃密になるようです。チューちゃんは頭の良い子で、ネズちゃんと呼ぶ人形をくわえてやって来ては、ひとの前にポトンと落とし、これを投げよと目配せします。ニャンコタワーを縦横無尽に駆け巡ってこれを追い掛け、またポトン。ヨーちゃんは目を丸くしてこれを眺めるだけ。

しかし、最近は、頭の良いチューちゃんは密かに我々の行動を観察し遂にドアノブのレバーを押し下げてドアを開けることに成功してしまいました。じわじわ時間をかけて、玄関や勝手口は二重ドアに改造し、窓やベランダには飛び出し防止の柵を廻らし、準備をしてきましたが、遂に時をとり、家中を遊び場に開放しました。

各自治体における協議会・委員会

本部職員が東京都動物愛護管理審議会、仙台市動物愛護協会等の委員、当協会5支部のメンバーも地元の動物愛護協議会の委員として会議に参加し、各地域及び全国の動物愛護協議会の委員として意見を述べてきています。また、当協会の会員の方々の中にも、在住地の自治体から動物愛護推進員の委嘱を受けて、地域における動物福祉の[推進]に注力しています。

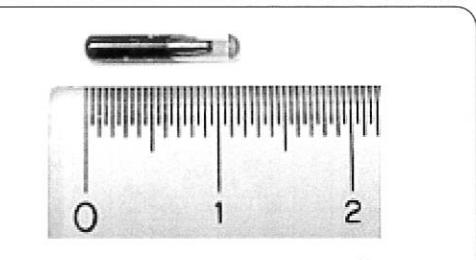
動物ID普及推進会議(AIPO)

当協会は、日本獣医師会などと協力して、マイクロチップによる個体識別のAIPO事業を推進しています。

ペットショップでの販売とマイクロチップ埋め込みをセットにして販売活動を行っていることが主因で、ここ数年20%

近い増加率でチップ埋め込みの登録数が増加していることは明るいニュースです。

これからは、より多くの飼い主の方々の間で、AIPOの有用性に対する認識が高まり、その着装が飼い主責任の一つとして認識されるようになれば、万が一の災害時にも、いち早く見物と確認が可能となり、大事なペット、愛するペットに寂しい思いをさせずに済むことになります。



マイクロチップ(写真／日本獣医師会)

II 広報・啓発活動

第55回動物愛護作文コンテスト

全国の小中学生を対象とする作文コンテストは応募総数が1279篇、と相変わらず多くの参加を得ることが出来ました。また、例年同様、力作、秀作ぞろいで審査員を大いに悩ました。環境大臣賞は小学生の部が山崎美宥（みゆ）さん（土浦市都和小学校5年）の「夕カの飛ぶ峠」、中学生の部が遠藤奏夏（かな）さん（お茶の水女子大学附属中学校3年）の「祖母と共に四半世紀生きる猫」が選ばれました。この他、特別賞の「昭和会館賞」や「ヒルズのサイエンス・ダイエット賞」を含めて、合計28名が受賞しました。

11月16日（日）、東京プリンスホテル・サンフラワーホールにて、名誉総裁常陸宮妃華子殿下のご臨席を賜り表彰式が開催され、受賞者とそのご家族、審査員の方々、来賓の皆様が出席されました。受賞した生徒、一人一人に妃殿下ご自身から記念品が授与され、また、お言葉をかけ



協会一等賞授与

て頂くなど、受賞者本人に加えて、ご家族の皆様の感激もひとしおで、その後の茶話会も和やかな雰囲気に包まれ、式典はつつがなく終了いたしました。



集合写真

作文コンテスト、イベント等

動物愛護週間中央行事

9月23日（火・祝日）に、屋外行事は上野恩賜公園で、屋内行事は東京国立博物館で開催されました。

今年度のテーマは「宣誓！無責任飼い主宣言！」でした。デング熱問題が勃発し開催が危惧されましたが、安全性が確認でき開催に漕ぎ着けることが出来ました。

当協会は、屋外行事では折り紙教室とフェイスペイント（これは大変な人気を博しました）を、屋内行事では講演とパネルディスカッションを担当しました。



フェイスペイント

屋外行事

パネルディスカッション

環境省主催

平成27年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰

表彰者に当協会が推薦した権藤眞徳氏が選ばれました。権藤氏は獣医師、学芸員、学術博士（医学）であるとともに、王子動物園園長、神戸市動物科学資料館長を歴任、現在は一般社団法人兵庫県自然保護協会理事長をされています。

表彰は、ミャンマー政府との連携により、毎年に亘り、同国ベンガルトラ保護区の生息状況調査を行うなど、その保護活動に取り組んできたことに加えて、現在もNPO法人神戸ミャンマー好文会の理事として、ミャンマーの野生動物調査、マングローブの植林、農業支援、教育支援など幅広く国際貢献に尽力されてきたことを対象にしたもの。



◆JAWSレポート

今年度は、74、75、76号と3回発行し、協会の活動全般の実施報告に加えて、改正動物愛護管理法の紹介・解説、新シェルターメディスンセミナー報告、第4回RSPCA短期研修会報告、米国内シェルター視察報告等を掲載しました。レポートは会員の皆様をはじめ、自治体動物関係者、獣医師会などのお届けしています。なお、今年から「JAWSレポート」の発行を年2回とします。発行回数は1回減少しますが、内容の充実を図り、より良いレポートとなりますよう努めて参ります。



◆研修・講演・取材等

(研修会) (研修会) 今年度もマース・ジャパン・リミテッドとメリアル・ジャパン(株)のご協賛を得て、JAHAとの共同主催で、第1回新シェルターメディスンセミナーを、6月28日及び12月20、21日の2回、計3日間に亘って開催しました。これは、それまで7回に亘って開催してきたアニマルシェルターセミナーを一新しさうに内容を充実させたもので、「よりよい譲渡に向けて」として、今年度と来年度の2年間で4回開催の予定です。

第1回の6月のセミナーでは、カリフォルニア大学デイビス校の田中亜紀先生から「シェルターメディスン～新しい動物医療～」、日本獣医生命科学大学の入交眞巳先生からは「シェルターにかかる動物行動学」を講演いただきました。また、過去7回のシェルターセミナー参加の成果を活かして改善に成功された新潟県動物愛護センターの遠山潤先生にも体験をお話しいただきました。第2回の12月のセミナーでは田中先生から、「感染症発生管理・衛生管理と消毒・シェルターにおけるワクチン接種と免疫及び重要感染症」、入交先生からは「動物行動学」について講演いただきました。

また、11月26日～28日の3日間に亘り、恒例とな

◆事務所移転のお知らせ

長年住み慣れた「ゆうばうと」前の事務所も老朽化に加えて、OA対応等もないことから、この度、思い切って事務所移転を決意し、昨年後半から物件探索を行っていました。

この度「これならば」という物件が見つかり、総会終了後の6月半ば、右記の通り「西五反田」から大崎寄りの「東五反田」に移りました。多少手狭になりましたが、表通りから一筋、裏手に入った閑静な場所です。

お近くお越しの際はぜひお立ち寄りください。

りつつある、第4回RSPCA動物福祉短期研修会を開催しました。RSPCAからは、国際部で動物福祉の研修を担当され、世界各地で動物保護団体・専門家・政府と共に動物福祉の向上に尽力されているP.Littlefair氏と動物虐待事例対応豊富な経験を有する告発訴訟担当のシニアマネージャー、P.Wilson氏のお二人をお招きし、動物福祉（動物のニーズや5つの自由を踏まえて）・動物虐待の定義や虐待の形態、その事例を挙げながら、調査手法、改善指導要領・動物福祉教育・英国の動物福祉法やRSPCAの活動状況等、幅広くお話しいただきました。ケーススタディ、パネルディスカッション等グループ作業を多く取り入れた研修会で、今回も数多くの自治体職員、獣医師、弁護士等が参加されました。参加者からは「日常業務を行う上での有用なヒントが一杯で、とても参考になりました」という評価が多く聞かれ、好評裡に終了しました。

(講演・取材等) 今年度も各方面から講演依頼や、テレビ局、新聞社を始めとして多くの情報メディア関係の取材申し込みを受け、当協会は積極的にこれに応じてきました。更に、一般及び会員の方々からの資料請求、情報提供依頼にも前向きに取り組み、各地で動物福祉の活動を推進されている方々の側面援助、サポートを行いました。

◆電話による相談

今年度も様々な動物関係の相談を数多く受けました。従来にも増して、飼い主の高齢化などを含む色々な理由から「どうしても飼えなくなった」という相談が多かったように思われますし、将来的にもこの傾向が続くことが危惧されます。また、「近所の犬がきちんと世話を受けていない」「虐待を受けているのでは?」、更には、海外からの旅行者から「どここのペットショップでの扱いは動物福祉に反するのでは?」といった相談、指摘、通報が一向になくなりません。

また、独居高齢者の死亡に絡んだ動物の扱い方の相談、あるいは、放置の問題なども増えてきています。こうした状況は高齢化が一層進むなか増々深刻化していくのは避けられません。従って、関係者による日常的な情報交換とその蓄積を丁寧に行いながら、その成果を官民協力の下で、あるべき動物福祉活動の充実、問題・課題に呼応するシステムづくりに結び付けていく事が喫緊の課題と認識する必要があります。

III 募金活動

◆常陸宮妃華子殿下のご翻訳絵本とデザインカード

妃殿下が翻訳された5冊の絵本のうち、2冊は絶版となり、現在は「ぼくじゃないよジェイクだよ」「ハニーが盲導犬になります」

まで「しょうぼう犬ドット」の3冊が残っております。デザインカードも高い人気を博しています。これらの売り上げ及び印税は、妃殿下のご好意で、当協会へご寄付いただいております。

やかな雰囲気が会場に満ちるなど、御来場の皆様には楽しい春宵の一時をお過ごしいただけたのではないかと思います。賞品・商品をご提供頂いた企業協賛社、個人の方々、そして裏方の力仕事や各種売店でボランティアを頂いた方々に、改めて、心から御礼申し上げます。

◆各種オリジナルグッズの販売等

昨年デザインとカラーを一新したシャツ類が、バザーなどで大変好評をいただいている。動物カレンダーは印刷部数こそ減らしておりますが、皆様からのペットのお写真掲載希望は多く、何とか販売部数を増やしたいと考えております。

また、新グッズとしてマグカップを作成し、こちらも好評をいただいている。



◆寄付金

匿名希望	92,860,613円	このご寄付は有価証券の形で行われ、ご寄付者の強い要望により、有価証券の形態で保有し、その分配金を動物福祉事業に充当し活用していく方針です。
------	-------------	---

◆寄付者ご芳名(敬称略)

	単位:円
JAWS.UK	1,790,651
樋渡 佐登子	1,695,436
バックカーズ・ファンデーション	1,500,000
中川 保子	1,000,000
中山 久子 (ご遺贈)	1,000,000
公益財団法人 日本いけばな芸術協会	1,000,000
株式会社 小学館	500,000
伏見 健司	500,000
土田 謙一(くまちゃん)	300,000
松平 寿美枝	293,000
一般社団法人 学習院桜友会	250,970

M.A	230,000
尾澤 芳子	210,000
公益社団法人 程ヶ谷基金	200,000
株式会社 フェリシモ	200,000
山口 以昌	197,000
津 由利子	120,000
兵藤 哲夫	100,000
早乙女 愛子	100,000
斎藤 保子	100,000
あさこ動物病院	100,000

◆定期的なご寄付者（敬称略）（14/4～15/3）

Natural works village 阿部正徑 天野由利子
雨甲斐麻衣子 池永寿美子 石井重則 石原ます子
(一社)常磐会 (一社)アニマル・ドネーション
イナザキナオミ 伊福千恵 内田夏子 岡田あさか
片桐由子 かもめカフェ 木村瑛 木村慎一
吳原弘吉 黒木敬子 黒木浩一
河野カイロプラクティック研究所 神戸室内オペラ
小島礼子 斎藤一人さんのお姉さんのお店 佐藤重
篠崎三香 篠田俊男 白鳥美映子 鈴木秀雄 武田邦子

豊嶋純子 西岡千秋 花岡幸嗣 張替邦夫 比嘉眞子
福森景子 牧野ふじ子 三好慈子 元上久枝
八木澤和良 山川望 山崎敏子 山脇雅史 弓削和子
株ガレージコンプリート 関根輝江 溝口健治
山田昌子 松岡栄子 水野恵美子 青木解 村上寿子
村田永子

（50音順）

ここに掲載できなかった方々に対しましても心から感謝申し上げます。

IV 会員募集活動

26年度は新規入会者110名に対し、退会者が349名に上った結果、会員数は昨年度の比べ239名減少し、特に個人会員は2,000名を下回ることになりました。

会員数の漸減傾向に歯止めが掛らず、役職員は危機感を以つて対応することの重要性を痛感しています。役職員は勿論の事ですが、支援者の皆様にも、お近くの方などで動物福祉に理解ある方がおられるようでしたら、是非入会をお奨めいたいだきたくよろしくお願ひいたします。

平成26年度の会員数は右表の通りです。

名譽会員	1名
法人会員	32社
終身会員	153名
維持会員	253名
賛助会員	1,536名
青少年会員	35名
合計	2,010名

※ご住所を変更された方は、必ず事務局へご一報下さいよう、お願い致します。

V 事務局関係

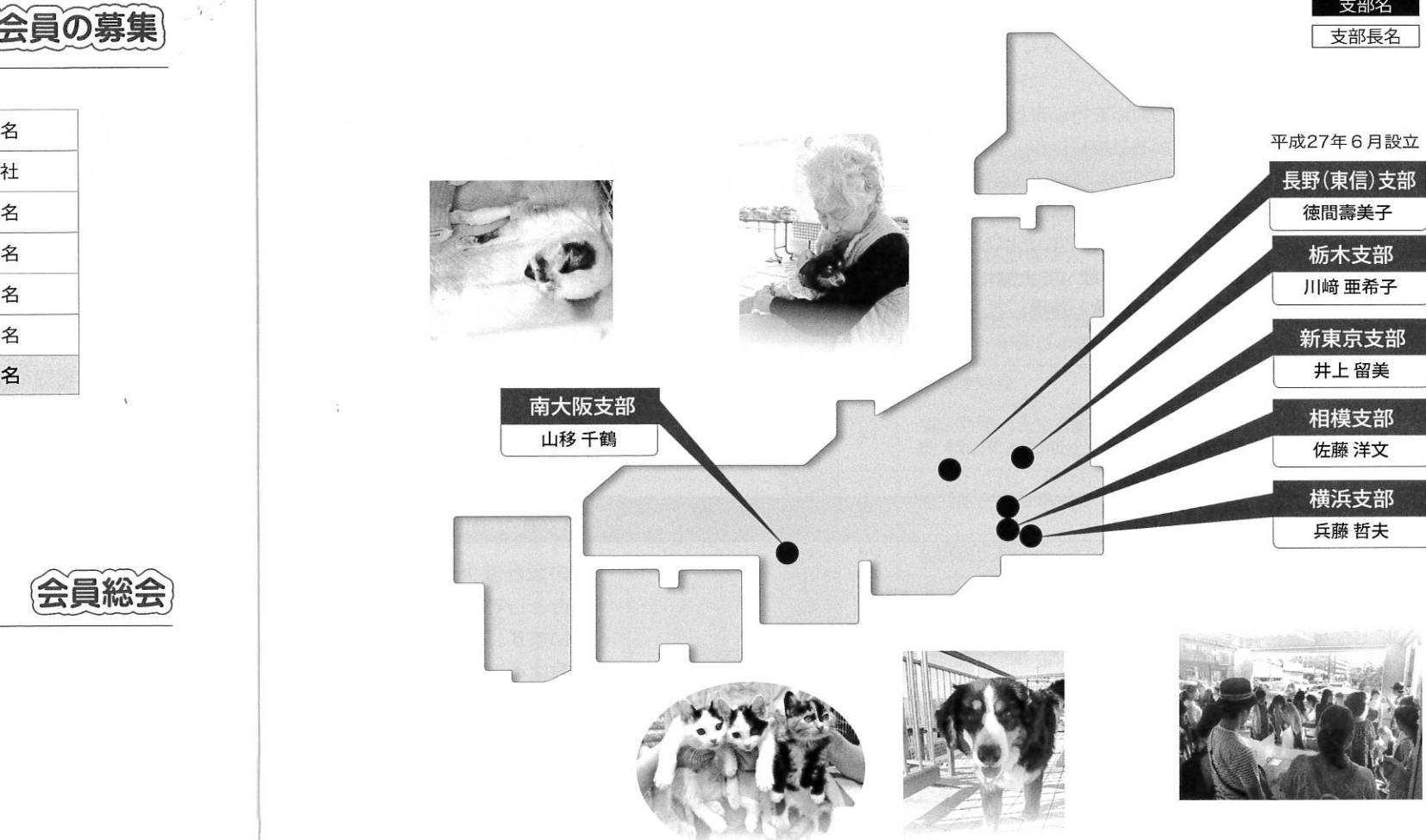
◆定時会員総会

平成27年6月6日、平成26年度定時会員総会が「ゆうばうと・五反田」において、午後1時半から、開催されました。第1号議案「平成26年度計算書類承認の件」、第2号議案「監事選任の件：高橋直人」、第3号議案「長野（東信）支部設立の件」が上程され、いずれも可決、承認され、午後2時半に閉会致しました。

新会員の募集

VI 各支部の活動報告

各支部では会員の皆様がボランティアとして、それぞれの地域で積極的な動物救護活動を展開しております。「改正・動物の愛護及び管理に関する法律」の周知に更に力を注ぐと共に、飼育管理相談、新しい飼い主探し、不妊・去勢手術の推進などの活動も継続的に展開しております。英國JAWSからも賞賛された皆様の活動の実態をご報告いたします。



▶ 栃木支部

◎不妊・去勢手術の推進と地域猫対策

不妊・去勢手術や地域猫対策を推進しています。飼い主がない猫や、会員が保護した犬や猫、飼育不適格者への啓発に積極的に本部からの助成金を活用しています。

◎団体譲渡

栃木県動物愛護指導センター、宇都宮市保健所の団体譲渡の登録団体として、殺処分前の犬や猫の譲渡に栃木支部でも積極的に取り組んでおります。特に負傷猫については、皆様のご寄付により医療費を賄わせていただき、殺処分しか道がなかったいのちがセカンドチャンスを得ているところです。譲渡に当たっては他団体様や有志個人の方の多大なご協力もあったことを記しておきたいと思います。また、本部や、本部を支援してくださる企業や皆様のお陰で、フードや医療費などを賄っております。皆様のお気持ちや支援に心より感謝いたします。

◎事件対応

栃木県における犬の大量死体遺棄事件の対応を行いました。当初、事件は葬祭業者であるなどの報道がありましたが、業者によるものであることを指摘し、再発防止のために働きかけを行いました。その後、栃木県に収容された生き残った犬の団体譲渡を受けました。また、犯人達が経営していたペットショップの廃業に伴い、引取り屋として引き取って大量に店内にいた状態の悪い犬や猫達をいくつかの団体と連携して、

Tochigi Branch

すべてレスキューを行いました。動物たちは、劣悪な管理下でネグレクト状態でしたが、きちんとケアを行い、譲渡先を探しています。中には繁殖犬特有の病気などがあり、いまだに治療している犬もいます。

大量生産され消費されるこのペット産業を見直していく必要を痛感した事件でした。



不妊・去勢手術助成金支給頭数 (犬・猫合計= 157)

犬	オス → 15	猫	オス → 51
	メス → 24		メス → 67
犬 計	39	猫 計	118

犬・猫の新しい飼い主探し実績頭数 (犬・猫合計= 248)

犬	オス → 108	猫	オス → 38
	メス → 75		メス → 27
犬 計	183	猫 計	65

(支部長 川崎 亜希子)

▶ 新東京支部

Shin-Tokyo Branch

こことところ全国的に犬猫の殺処分ゼロ運動の機運が高まり、ピーク時の昭和58年度には約56,000頭もの殺処分がおこなわれていた東京都でも、行政と民間ボランティア団体の努力の結果、近年の平成24年の2,404頭から平成25年度は1,441頭と1年間で約1,000頭もの減少傾向にあります。保護動物数も平成24年度の3,604頭から平成25年度は2,586頭と約1,000頭も減っています。この収容動物では子猫の頭数が圧倒的に多いため、今年度は当支部も猫に傾いた活動となりました。



動物を手放す原因として多いのが、高齢者の施設入所や、最悪の場合は死亡のため動物が取り残されてしまったり、引っ越し理由などが多いようです。譲渡対象動物も人同様に高齢になっているケースが多いのですが、そうなると子猫ほど引き取り手がないのが実情です。現在、日本では販売される子

犬の数が減少傾向にあり、割合として高齢犬が増加しています。一方、猫は子猫の数は不明ですが犬と同様に高齢化がみられます。東京などの都市部では、費用面や集合住宅での飼いやすさを背景に猫の飼育数は今後も伸びる可能性があります。

2020年のオリンピック・パラリンピック開催を目指して、東京都の動物愛護活動も活発になることが予想されます。今後の譲渡活動は、こうした高齢動物や猫たちが課題と考えております。当支部も動物福祉の啓発活動を通じて、「今そこにある命」を大切にすることを訴え、適正な飼養管理および譲渡活動の推進に努めて参りたいと存じます。

不妊・去勢手術助成金支給頭数 (犬・猫合計=1)

犬	オス → 0	猫	オス → 1
	メス → 0		メス → 0
犬 計	0	猫 計	1

犬・猫の新しい飼い主探し実績頭数 (犬・猫合計=8)

犬	オス → 0	猫	オス → 4
	メス → 1		メス → 3
犬 計	1	猫 計	7

(支部長 井上留美)

▶ 横浜支部

□支部活動の歴史と概要

私(兵藤哲夫支部長)が日本動物福祉協会に入会し、本部の方針と全国の各支部に刺激され横浜支部を発足させたのは、昭和50年(1975年)のことでした。犬や猫の保護活動・不妊手術の実践・新しい飼い主を見つける運動・動物福祉の啓発・横浜市の行政との協力・協議会メンバーとしての動物フェスタや動物愛護センターに対する協力、などを行ってきました。そして支部推薦の動物愛護推進員は、現在、十数名に達しています。特に、毎月行われている譲渡会が支部の求心力を高める方向に働き、相模支部の方々や日大、ヤマザキ学園大学の学生も参加され、毎回沢山の犬猫が優しい家族に貰われて行きます。譲渡会終了後、当日の反省会や報告、参加者からの意見や質問を受け、最後に犬のトレーナーの方からミニセミナーを受けて最終的に終了致します。

○譲渡会開催状況

月	日	ボランティア数	犬:頭	猫:匹
4	20	15	1	4
5	18	15	0	3
6	15	15	2	2
7	20	15	0	2
8	17	16	2	8
9	21	13	1	9
10	19	15	0	3
11	16	8	0	4
12	21	11	1	4
1	18	8	1	3
2	15	12	1	1
3	15	12	1	3

○その他の活動

月	日	行 事 / 内 容 等	備 考
5	18	旭区動物適正推進委員会連絡会「犬のマナー教室」 於:旭日スポーツセンター 主催:旭区獣医師会・区ペットショップオーナーズクラブ・日本ヒルズ・コレガート(株)	来客数:21名 犬:21頭
6	3	人と動物との共生推進横浜協議会 於:関内・中央ビル会議室	出席:兵藤
6	7	当協会総会	出席:支部3名
7	31	旭区動物適正推進委員会連絡会・研修会 於:横浜市社会福祉センター	出席:3名
9	8	旭日区民祭り準備会	出席:区動物適正推進委員6名
10	19	旭区区民祭り	出席:同上多数
12	16	人と動物との共生推進横浜協議会 於:関内 中央ビル会議室	出席:兵藤
3	2	旭区動物適正推進連絡会 於:区役所	出席:5名
3	26	平成26年度横浜市動物適正飼育推進委員活動報告会 報告内容:26年度活動事例 他 於:横浜市開港記念会館	2名
通 年		犬・猫譲渡会に参加 (横浜支部・兵藤動物病院との共催)	



毎月行われている譲渡会風景



不妊・去勢手術助成金支給頭数 (犬・猫合計=175)

犬	オス → 15 メス → 10 犬 計	猫	オス → 50 メス → 100 猫 計
	25		150

犬・猫の新しい飼い主探し実績頭数 (犬・猫合計=65)

犬	オス → 10 メス → 15 犬 計	猫	オス → 20 メス → 20 猫 計
	25		40

(支部長 兵藤哲夫)

Sagami Branch

► 相模支部

◇ 謾渡会について



当支部の活動は現在のところ、不妊・去勢手術の啓蒙と推進、横浜支部と合同でおこなっている月に一度の『新しい飼い主さん探しの会』、さらに保護された飼い主不明動物に病気やケガがあった場合の治療及び入院処置が主なものとなっています。

当支部の活動するエリアは都市部と郊外、野山が混在しており多様な傷病動物の相談が持ち込まれますが、幸い支部の主な会員に2

軒の動物病院がある事から、積極的に傷病動物を受け入れて治療をおこなっています。

犬については不妊・去勢手術の助成の相談を受ける事はほとんどと言って良いくらい無くなり、飼育する人たちの意識はそれなりに向上したものと考えられますが、猫については不妊・去勢手術の相談も、飼い主不明の傷病猫の保護や治療についての相談もこの数年間は横ばいであります。減少してゆく様子は見えません。

今後この状況を改善してゆくためには不妊・去勢手術の必要性についてはもちろんの事、室内飼育が大事である事や無責任なえさやり、飼育禁止の住宅において周囲に隠れて飼育する事の問題について広く周知し理解を広げてゆく活動が重要になってくるものと考えておりますが、効果的な方法がなかなか思いつかず苦心しております。他支部の皆様との連携を深めて、いろいろなアイディアをお聴かせいただきながら今後の活動をよりよいものとして、人と動物が幸せに暮らしていく社会を作るお手伝いをしていきたいと思っております。

犬・猫の新しい飼い主探し実績頭数 (犬・猫合計=32)

犬	オス → 0 メス → 0 犬 計	猫	オス → 14 メス → 18 猫 計
	0		32

不妊・去勢手術助成金支給頭数 (犬・猫合計=3)

犬	オス → 0 メス → 0 犬 計	猫	オス → 1 メス → 2 猫 計
	0		3

(支部長 佐藤洋文)

► 南大阪支部

Mimami-Osaka Branch

分別の無い世代、人柄であれば「狂気の沙汰」と捨て置くこともできるが、身を以って生命の大切さを生徒に教えるべき立場にある者が、どうしてこのような短絡的で思慮のない行動に走ったのか。殺すことには抵抗はなかったのか、「殺してみたい」邪心は無かったのか。いい年をした大人が「対処の仕方が分からなかった」という言い分は通用しない。

犬猫問題は、まずは、保健所なり自治体の担当部署に相談、というのが一般的になっているからである。

この子猫たちは「命の教育」をするのに絶好の教材ではないか。学校全体の共有事案として、どうしたら助けられるのか、誰か貢ってくれる人はいないのか、等を全学年で話し合ってほしかった。手を尽くしても余った場合は、新しい飼い主探しをしている動物愛護団体に相談するという方法もある。

獵奇的な犯罪は、まずは、猫を糸口にして、次は人間に襲いかかるというケースが多いのが気になるところだ。

不妊・去勢手術助成金支給頭数 (犬・猫合計=815)

犬	オス → 40 メス → 37 犬 計	猫	オス → 199 メス → 539 猫 計
	77		738

犬・猫の新しい飼い主探し実績頭数 (犬・猫合計=65)

犬	オス → 16 メス → 48 犬 計	猫	オス → 42 メス → 36 猫 計
	64		78

(支部長 山移 千鶴)

VII 財務状況

◎財産の状況 ◎収支の状況 ◎平成 27 年度予算

単位：千円

◎財産の状況	26 年度	25 年度
現預金	65,226	63,502
貯蔵品	650	771
その他流動資産	1,107	1,084
固定資産	115,075	28,583
特定資産	113,575	27,083
その他	1,500	1,500
資産合計	182,058	93,940
負債合計	1,961	5,656
正味財産	180,097	88,284

- 当年度の収入は大口の特定寄付金があり、表面的には 9,181 万円の黒字となりました。
- 特定寄付金 9,286 万円を全額を特定資産として積み立てたことで、現預金としては 172 万円の増加にとどまりました。
- この特定資産は平成 27 年以降に動物福祉事業に使用する計画です。
- 特定資産の捨て犬・捨て猫防止基金を 670 万円の取り崩しを実施しました。

◎収支の状況	26 年度	25 年度
前期繰越額	88,284	57,109
会費収入	34,753	31,379
寄付金収入	116,804	52,546
募金収入	7,131	7,215
その他収入	5,858	5,431
当期収入合計	252,830	96,720
事業費	53,952	48,018
一般経費	29,804	26,728
事業経費	24,148	21,290
管理費	11,277	10,306
募金等関連経費	7,504	7,222
当期支出合計	72,732	65,546
次期繰越額	180,097	88,283

- 当年度は JAWS U.K よりの会費が円安の影響で 297 万円増加しました。
- 大口の特定寄付金が 9,286 万円あり、寄付金が大幅に増加しました。
- 一方で、事業費（不妊・去勢手術）助成金等が増加しましたが、一般経費、管理費の削減に注力した結果、収入は表面的には 9,181 万円の大幅黒字となりました。

◎平成27年度予算

単位：千円

前期繰越額	180,097
会費収入	30,150
寄付金収入	20,650
募金収入	6,955
その他収入	4,682
当期収入合計	62,437
動物福祉事業費	54,943
一般経費	30,013
事業経費	24,930
管理費	8,666
募金等関連経費	8,413
当期支出合計	72,022
次期繰越額	170,512

- 27 年度収支は寄付金の大幅減が予想されますが、動物福祉に重点を置き、一般経費管理費の削減を図り、958 万円の赤字を見込んでいます。
- 会員数が減少しており、事業の強化・拡大のため、会員増の強化を図る必要があります。